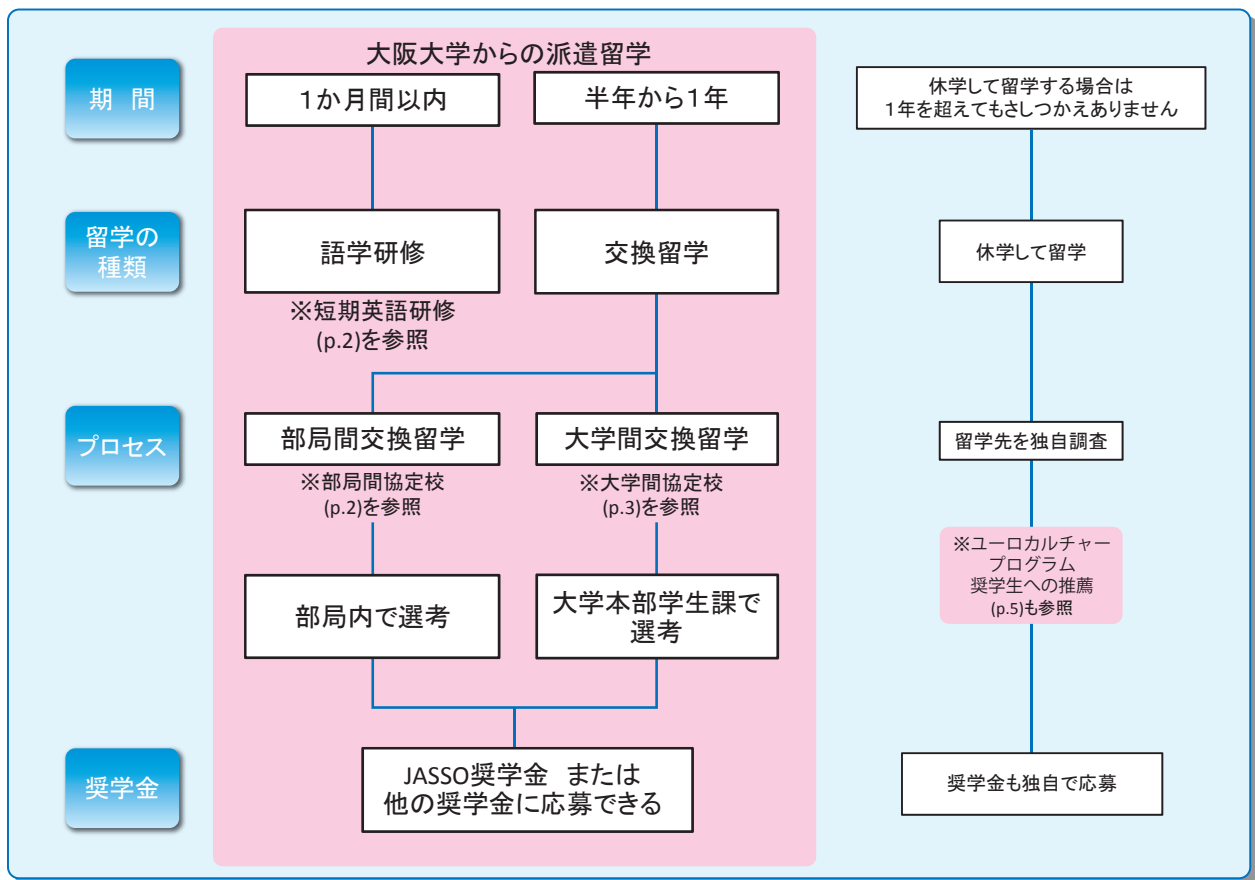


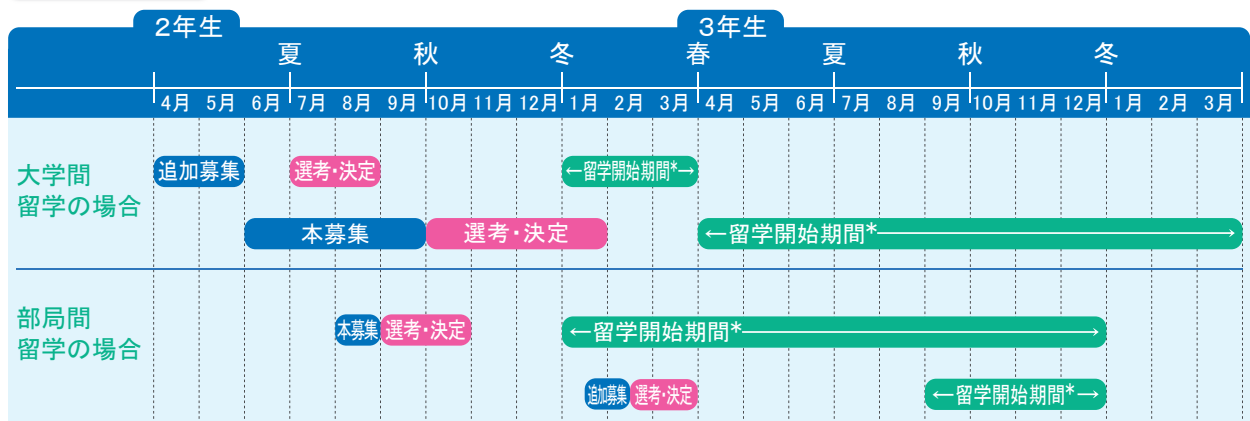


## 留学のチャンスを活用しましょう！

大阪大学では学部生・大学院生の海外留学を推奨しています。  
 このパンフレット掲載の情報は、[文学部・文学研究科のホームページ](#)でご確認いただけます。  
 文学部・文学研究科 HP » 国際交流 <http://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/international>



### タイムライン



\*留学開始時期は受入大学の学期開始時期による

## A. 留学情報 役に立つ説明会が実施されています

- ★「**海外留学オリエンテーション**」(国際学生交流課主催) 4月末に各キャンパスで開催。語学研修、国際交流科目などについての説明があります。
- ★「**海外留学フェア**」(国際学生交流課主催) 2021年度は、コロナの影響で未定です。
- ★「**大学間交換留学オリエンテーション**」(国際学生交流課主催) 5月から6月にかけて、各キャンパスで開催。交換留学(大学派遣)についての説明があります。
- ★「**文学部・文学研究科 留学説明会**」5月開催。  
文学部・文学研究科の交換留学、語学研修の体験談、留学の応募から出発前の準備の様子などを紹介します。  
☆パンフレット「海外留学にチャレンジしてみよう!」[阪大生のための「海外留学ガイドブック」]  
[http://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex\\_students.html](http://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex_students.html)

## 留学の種類と語学研修

- ★**短期英語研修** [数週間程度] 夏休みや春休みに英語研修が実施されています。※2020年度は中止となりました。

プログラム名	募集時期 (2019年度情報)	実施時期 (2019年度情報)
ヨーク大学 夏季語学研修プログラム*	5月中旬	8月下旬～9月下旬 (24日間)
グローニンゲン大学 短期訪問プログラム*	4月中旬から5月上旬	8月中旬～9月初旬 (16日間)
オタゴ大学 夏季語学研修プログラム*	4月から5月中旬	8月下旬～9月下旬 (1ヶ月)
モナシュ大学 春季語学研修プログラム*	10月中旬から11月上旬	2月末～3月末 (1ヶ月) (2020年度はオンライン実施しました)

※「国際交流科目」として単位修得できるプログラム☆2021年度については、募集情報は大阪大学や文学部・文学研究科のHP、KOANでご確認ください。

- ★**交換留学** 交流協定校へ1学期以上、1年未満の期間での留学

- ✓ 交換留学制度を利用する場合、大阪大学を休学することはできません。「留学」という身分になります。
- ✓ 留学中は大阪大学の学費を本学に納入します。多くの場合、留学先大学へ授業料を支払う必要はありません。
- ✓ 留学先で取得した単位は、所定の手続きを経て大阪大学で取得した単位として認められることがあります。
- ✓ 英語力はTOEFL iBT79～80以上、IELTS 6.0以上が目安です。イギリスの大学への留学にはIELTS for UKVI 6.0 (各セクション5.5以上) 以上のスコアが必要です。

◆文学部・文学研究科の学生が海外留学のために利用できる交流協定には下記の2種があります。

### 1. 交換留学 (部局間) 文学部・文学研究科は以下の大学と学生交流協定を結んでいます。(2021年2月28日現在)

イギリス	マンチェスター大学	人文学部
	イーストアングリア大学	
イタリア	ウーディネ大学	法学部
オランダ	グローニンゲン大学	人文学部
スウェーデン	ウプサラ大学 (*修士・博士前期のみ)	神学部
チェコ	オロモウツ パラツキー大学	文学部
ドイツ	ハイデルベルク大学	日本学研究所
	ゲッティンゲン大学	社会科学部
フランス	パリ大学	
中国	上海戯劇学院 *院生のみ	
	西北大学	文化遺産学院
韓国	建国大学 *院生のみ	
	韓国芸術総合学校	演劇院
タイ	チュラロンコン大学 *院生のみ	アジア研究所
台湾	国立台湾師範大学	文学院
		国際与社会科学学院

交換留学 (部局間) の募集・選考予定は以下の通りです。

募集	8月 (本募集)	1月～2月 (追加募集)*
選考	9月上旬	2月～3月
留学開始	翌年1月～12月	9月～12月

\* 大学によっては募集枠のない場合があります。

## 2. 交換留学（大学間）

大阪大学は世界各地の約 134 大学と交流協定を結んでいます。（2020 年 7 月現在、大学 HP 参照）

募集締切	5 月下旬頃	9 月下旬頃
学内選考・面接	7～8 月	10～11 月
学内選考結果通知	8 月頃	1 月頃
留学開始	翌年 1 月～3 月	翌年 4 月～翌々年 3 月

### バーチャル交換留学プログラム

#### バーチャル留学について

大阪大学ではポストコロナの状況を展望し、海外の大学等からオンラインで提供されるプログラムを学生が履修する場合、一定の条件を満たす者\*に対して単位を付与し、また「留学」として認定します。

\*一定の条件を満たす者とは、以下の通りです。

- ① 「グローバル人材育成研修」（グローバルイニシアティブセンター提供科目）の単位修得者及び同等の活動を行った者
- ② 全 15 コマ中 8 コマ以上の講義が、海外の大学や研究機関所属のゲストスピーカーにより日本語以外の言語で提供される科目の単位修得者
- ③ 本学が海外大学等に委託して実施するオンライン短期語学研修又は協定校などの海外大学が提供するオンライン短期語学研修に参加し、当該プログラムを修了<sup>(注)</sup>した学部生及び大学院生（本学による単位認定の有無は問わない）
- ④ 協定校などの海外大学の正課講義を、受講登録したうえで公式にオンライン受講した学部生及び大学院生（本学による単位認定の有無は問わない）

(注)：海外大学等が公式に発行する transcript（成績証明書）により修了が確認できるものであること

以下に一例を紹介します。詳しくは国際連携室まで、お問い合わせください。

#### ★ APRU Virtual Student Exchange Program (VSE)

VSE は ARRU (Association of Pacific Rim Universities (環太平洋大学協会)) 加盟大学が提供する授業科目から構成されるオンラインプログラムです。詳細は、以下ウェブサイトを確認してください。

- ✓ VSE ウェブサイト <http://vse.apru.org/>
- ✓ VSE ウェブサイト Application <http://vse.apru.org/application/>
- ✓ VSE ウェブサイト授業科目一覧 <https://vse.apru.org/course202101/>  
(申請期限は大学毎に異なります。詳細は、VSE ウェブサイト授業科目一覧をご覧ください。)
- ✓ Co-curricular programs <https://vse.apru.org/co-curricular-programs/>

#### ☆対象者

本学に在籍する学部学生

#### ☆申請方法

申請は、VSE ウェブサイトでを行います。詳細は「VSE ウェブサイト Application」を確認ください。以下は手順の概要です。

- ① ウェブサイト上で申請書 (Application Form) を提出する。
- ② ①の後、申請書入力内容の詳細と成績証明書をダウンロードするためのリンク先を知らせるメールを受信する。
- ③ ②のメールを本学 APRU VSE コーディネーター

(国際部国際企画課国際交流係、メール：[kokusai-koryu-suisin@office.osaka-u.ac.jp](mailto:kokusai-koryu-suisin@office.osaka-u.ac.jp)) に転送する。

- ④ 本学 APRU VSE コーディネーターが申請内容を確認後、VSE オフィスに連絡。

★①～③の手続き後、VSE オフィスと履修申請した授業科目を提供する大学が申請書等の書類を確認します。授業科目の履修が認められると VSE オフィスからメールが届きます。その後、提供大学から詳細な登録方法等について案内があります。

※ APRU は、環太平洋地域を代表する大学の学長で構成される組織で、各国の高等教育の相互協力関係を強め、環太平洋地域社会にとって重要な諸問題（例えば経済発展、都市化、技術移転、大気汚染、資源枯渇等）に対し、教育・研究の分野から協力・貢献することを目的として 1997 年に設立されました。現在は、環太平洋地域から 56 大学 (2020 年 11 月時点) が加盟しており、各大学にてワークショップ、シンポジウム、国際会議等の様々なプログラムを実施しています。大阪大学は設立当初からメンバーとして加盟しており、各種イベントに学生及び研究者を派遣しています。

※ 登録費用：必要な登録料等は一部支給します。詳細は国際連携室まで、お問い合わせください。

## B. 奨学金情報 (2020年度実績)

(奨学金の募集条件等は変更される可能性があります。2021年度に募集される奨学金情報は、順次、大学のホームページ、KOAN等で案内されます。)

大阪大学 HP » 国際交流・留学 » 大阪大学から海外留学したい方 » 留学助成制度  
<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/scholarship>

### 1. 独立行政法人日本学生支援機構 (JASSO) 実施の奨学金

支給型・・・応募要件等を確認のうえ、文学部・文学研究科教務係に応募書類を提出してください。

協定派遣	学部・大学院の正規生 (外国人留学生を除く) 3ヶ月以上12ヶ月以内の交換留学	月額 10・8・7・6万円 月額支給額は地域により異なる
大学院学位 取得型	以下の全てを満たす者 (外国人留学生を除く) ①申請時に本学学部・大学院に在学する正規生 又は最終学位を本学正規課程で取得した者 ②JASSOが定める「応募者の要件」を満たす者	月額 89,000円～148,000円 (地域により異なる) 授業料 (上限1万米ドル)

他にも、貸与型の「第二種奨学金」(短期留学)・(海外)があります。

詳細は下記ホームページ (<http://ryugaku.jasso.go.jp/scholarship/>) をご覧ください。

### 2. 大阪大学の奨学金 未来基金グローバル化推進事業

応募要件等を確認のうえ、文学部・文学研究科教務係に応募書類を提出してください。

交換留学奨学金	学部・博士前期課程の正規生 交換留学 (3か月以上1年未満)	月額 5万円
研究留学助成金	大学院生 (正規生) 研究留学 (3ヶ月間以上10ヶ月間程度)	往復渡航費：アジア地域 10万円、その他地域 20万円 奨学金：月額 10・8・7・6万円 (留学先による)
住友化学グローバルリーダー 育成奨学金	学部・大学院生 (正規生) 留学 (3ヶ月間以上)	留学期間 6か月未満：60/80万 留学期間 6か月以上：90/120万

### 3. 文学部の奨学金 教育ゆめ基金

交換留学する**文学部学生**を対象とした奨学金です。1年に2回募集します。

文学部・文学研究科 HP » 国際交流 » 海外留学・研修 » 交換留学 (部局間) について » 「4. 教育ゆめ基金」  
<http://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/international/exchange/inter-faculty>

### 4. その他の奨学金

\* 日本学生支援機構「**海外留学の奨学金**」のページ [http://ryugaku.jasso.go.jp/scholarship/scholarship\\_other/](http://ryugaku.jasso.go.jp/scholarship/scholarship_other/)

\* 「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム～」

対象：学部・大学院に在籍する正規生 28日以上2年以内 (3か月以上推奨) 留学する者

支給額：月額 6～16万円 (経済状況や留学先地域による)

## C. 外国語による授業

[http://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/inbound/exchange\\_program/eng\\_course](http://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/inbound/exchange_program/eng_course) (英語開講授業リスト)

### 1. 全学共通教育科目の外国語による授業

### 2. 国際交流科目 全学の先生方が、その専門に応じて英語による講義を提供しています。

### 3. 外国語による発信力を育成するための科目

“Basic Academic Skills for Humanities” “Introduction to Contemporary Japanese Studies” などの外国語によるアカデミックスキルを育成する授業を開講しています。

### 4. エラスムス・ムンドゥス英語授業 "Contemporary Japan in the Global Context"

10月から12月に開講されます。(修士課程以上)



## D. 語学能力について

英語の場合 各大学の必要要件を調べましょう。各セクションごとに足切り点がある場合もあります。

- ・ TOEFL アメリカやカナダなど北米の大学に応募する場合一般的に用いられます。試験はコンピューターで4技能(リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング)を測定する試験です。
- ・ IELTS イギリスやヨーロッパ、オセアニア、アジア圏などで一般的に用いられます。特にイギリスの場合は、IELTS UKVIの指定がある場合もあるので確認しましょう。また、学生ビザ申請のための足切り点もあります。筆記試験と、スピーキングの面接があります。

英語以外の外国語の場合

当該外国語の語学能力試験のスコアの提出、もしくは大阪大学で行われている当該ネイティブ講師による語学能力を証明する文書の提出によって判断します。大学間では、交換留学応募時に公式の語学能力証明書を求められることがあります。)

国際連携室に試験対策用の参考書がありますのでご利用ください。貸し出しもできます。

## ★正規留学 学位取得を目指し、国外の大学や研究機関へ留学

### ▼エラスムス・ムンドゥス修士課程への留学 ユーロカルチャープログラム奨学生への推薦

EUが運営するErasmus Mundusプログラムのひとつに、ユーロカルチャー (Euroculture) があります。豊富なカリキュラムを通じ、現代ヨーロッパの文化・社会・政治について、EU圏内の大学で多角的に学べるプログラムです。

大阪大学文学研究科は同プログラムのパートナー校として、大阪大学の卒業生と大学院生の中から毎年若干名を推薦しています。2年間、EU圏内の以下の8大学のうち2校へ留学でき、修了後はその2校から修士号が得られます。詳細は文学部・文学研究科の関連ページ([HP](#) » [国際交流](#) » [Erasmus Mundus](#))をご覧ください。

コンソーシアム参加校：グローニンゲン大学 (オランダ)、ゲッティンゲン大学 (ドイツ)、  
ウプサラ大学 (スウェーデン)、ヤゲロニアン大学 (ポーランド)、パラツキー大学 (チェコ)、  
デウスト大学 (スペイン)、ウーディネ大学 (イタリア)、ストラスブール大学 (フランス)

毎年10月に説明会を実施していますので興味のある方はご参加下さい。

11月に学内選考を行い奨学生候補を選出しています。





## 留学体験記

### 交換留学体験記

ドイツ文学専修 3年 戸田創太

ドイツ ハイデルベルク大学 (部局間派遣、派遣時 学部2年)

奨学金の枠が余っていると文学部の留学説明会で聞かされたのが5月で、「こんな幸運はなかなかないぞ」と周りの人々にも後押しされた結果、9月の初めにはハイデルベルクに到着していた。寮へ向かうバスに揺られながら、青い空のもと広がるハイデルベルクの風景を見て、まさか本当にドイツに住むことになるとはなあ、と他人事のように思ったのをよく覚えている。

学期の前に行われた語学コースではなかなか苦勞することになった。祖父がドイツ語を話すとか、実家でドイツ語のテレビが映るとかいう級友が多くて、自分のドイツ語がクラスで一番へただということを知づくのに10分かかからなかった。毎朝の通学路で同じ寮に住む級友が自転車に乗って「お先に〜」と私を追い抜いて行くたび、私は取り残されている感じを強くしていた。

しかし、ハイデルベルクの大通りを歩くことほど楽しいことはなかった。レクラムや教科書が並ぶ本屋、外れにある名画座、いつも昼食を摂る学生食堂は見るだけで嬉しくなり、古城がその雄大な姿をときおり覗かせたかと思うと、友人と出くわしたりして、その全てを芸人が奏でるグリーンスリーヴスが包み込んでいた。そのような環境での学習は大いに捗った。

ラテン語や哲学の授業をどうにか終わらせて春休みが始まったころ、感染症が流行り始めた。あ

の大通りから人影はほとんどなくなり、図書館も閉鎖されてしまった。

ほどなくして大学から帰国要請が届き、私は二日で荷物をまとめて満足に友人へ別れを告げることもできないまま思い出に溢れた街を去ることになった。これほど突然に始まり突然に終わった留学は、私のそれを措いてないのではなかろうか。帰国後、ハイデルベルク大学のオンライン講義を受けて、むこうに残った友人たちと思いがけず「再会」した。その講義に出席するたび、ドイツでの日々を思い出して幸福な気分になる一方で、これからも学習に励んで再びかの地で学びたいという思いを強くした。



### ゲッティンゲン大学への留学

文学部ドイツ文学専修 4年 浦本紗希

ドイツ・ゲッティンゲン大学 (部局間派遣、派遣時 学部4年)

2019年4月から8月まで、ドイツ・ゲッティンゲン大学へ留学しました。期間としては約5ヶ月という比較的短い時間でしたが、この留学経験は私にとって宝物になりました。

長期間の海外滞在経験もなく、ドイツへの渡航も初めてだった私は、期待よりも不安の気持ちを大きく抱えたまま、ドイツに降り立ちました。肩が外れそうなほどの重い荷物は、ドイツでの生活への不安のせいで、余計に重さが増しているようでした。

しかしそんな不安も、ゲッティンゲンに到着してからの慌ただしい日々の中で消えていきました。大

学でのオリエンテーションに参加したり、諸々の手続きを済ませていくうちに、現地の学生や世界中からきた留学生たちがいつの間にか私の周りにいてくれて、支えてくれたのです。彼らとの交流の中でもとりわけ印象的だったのは、各々が、自らの研究に対して並々ならぬ熱意を持っていたことでした。楽しく、そして誇らしげに自らの研究について語る彼らの姿とは一転、私自身は研究に対する考えがまだまだ浅かったことに気づかされました。このことをきっかけに、私は研究に関する自分の関心についてこれまで以上に考えるようになりました。

また、週末や長期休暇の間にヨーロッパ各地を一人で旅行したことも、私にとっては貴重な経験になりました。ヨーロッパといえども、もちろん国々によって言語も風景も全く違いました。憧れていたフランス・パリに到着するや否や、予約していたはずのホテルが閉店していて絶望したこと。スイスでは、7時間以上かけて登山に挑戦したこと。

今となってはそのような出来事のすべてが愛おしい思い出になりました。日本を出発した時は不安でいっぱいでしたが、日本へ帰国する時はドイツを離れたくない気持ちで、終始涙が止まりませんでした。素敵な友人たちとの思い出、そして留学での全ての経験は、私にとってかけがえのない宝物になりました。

最後になりましたが、留学にあたって何から何までサポートしてくださった国際連携室と教務課の方々、研究室の先生方、家族、ドイツでの友人たちに感謝申し上げます。ありがとうございました。



## シンガポール国立大学への留学

英語学専攻 4年 柳田雄一郎

シンガポール国立大学 (大学間派遣、派遣時 学部3年)

私はシンガポール国立大学(以下NUS)へ、2019年8月～12月までの5ヶ月間留学した。

### 【留学した理由】

NUSを選んだ理由は3つある。1つ目は、世界各地をバックパック周遊していた際に、東南アジアの、発展への活気あふれる風土に惹かれたことだ。その中でも、成長を続けるリーダー的存在のシンガポールには、一際強い興味があったのだ。2つ目はNUSの優秀さだ。世界ランキングアジアトップの大学にはどんな学生がいて何を考えているか、その環境に身を置きたかった。3つ目は専攻内容との関連だ。シンガポール英語は独特な英語で、学問の対象として興味深い。

### 【留学中】

・授業。大阪大学の専攻である英米文学英語学専修に合わせて英語学を1つと、シンガポールについて学ぶものを2つ履修した。授業はLectureとTutorialという2つのパートに分かれる。前者は講義形式、後者は討論や発表形式だ。膨大な資料を読み込んだり、資料を作ったり、チームと準備しあって参加する必要があるため、かなりの負担だった。優秀な学生が多く、考え方や価値観など、学問以外でも学ぶことは多かった。

・娯楽。アジアのハブであるチャンギ空港は各国へのアクセスがよく、10カ国以上旅行した。国内でも観光地は豊富で、時には羽目を外してカジノ等も行った。また、各国の文化的行事も楽しめるので、旧正月やらクリスマスやらと随分楽しんだ。

・寮生活。寮は5種類程選択肢があり、各寮特徴がある。中にはジム、コンビニ、食堂、スタバ完備でホテル宛らの所もある。私は、シンガポール現地学生との交流が多く、食事付きの寮を選んだ。エア

コンが無く、窓を開けると虫が入るのは難点だったが、費用が安かったこともあり、満足度は高い。

・病院。私は滞在中に大きめの病に罹患した。保険に入っていたので、別途負担は無かったが、日本人病院の場所や利用方法は予め調べるべきだと思う。

卒業論文では早速学びを活かした。また、留学をきっかけに会社就職を決めたが、人脈やスキルをこの先も活かしたい。そしてSNSのおかげで友人達とは連絡を取れている。滞在期間こそ長くなかったが、日本ではできない貴重な経験がごまんとできた。これから留学に行くことを検討している方はコロナ等々懸念もあるだろう。ただ、「行かなければよかった」という声は未だ聞いたことがないのに対して「行ってよかった」という声ばかり聞こえてくるのが答えであろう。是非挑戦することを勧める。





## Life at Osaka University

文学部 研究生 日本文学 Bakul Binjola  
インド、国費留学生

Being a student of Japanese language, I had always wanted to experience studying in a Japanese university. I could finally get this opportunity at Osaka University's Graduate School of Letters.

I had visited Japan once before in a short-term study program, but this was my first time living in Japan for a considerably long time. It was also my first time in Osaka. Since the beginning of my stay, I was assisted greatly by the staff of my department. I was provided accommodation in a University hostel which proved very helpful in the beginning. I was also provided with various information about starting a new life in Japan by the kind staff of my department.

Studying at Osaka University has been an immensely enriching and fulfilling experience. It was possible for me to experience University as a normal Japanese student would and attend classes with them. Most of my classes were in Japanese. These classes were meant for Japanese students and were a little difficult to catch up to at first. Specially, participating in discussions with students in Japanese was a bit daunting but slowly I could build confidence and participate to an extent. These experiences provided me with an impetus to work hard on my Japanese skills.

Osaka is also a very beautiful and comfortable place to live in. Places like Kyoto and Nara are easily accessible, which helps one gain a thorough look into Japanese culture and history. There are many activities available inside the campus as well like mochi-making and tea ceremony, hosted by the BSP, which provide a great opportunity to interact with Japanese students and learn about Japan. There are also language cafes held throughout the year where one can practice speaking Japanese or teach one's own language to Japanese students.

Due to the Covid pandemic, daily life was

drastically changed not only in Japan but throughout the world. To deal with the situation, online classes were started in the university. To avoid the spread of the virus, classroom capacity was reduced and the windows were kept open. Wearing masks is mandatory in the campus now and all buildings are equipped with alcohol sanitizers.

After a period in April and May, the university library had reopened with a shorter working time so students could study in comfort. The university has been proactive in providing information about the spread of virus and the precautions to be taken.

All in all, my experience in Osaka University has been a very enjoyable one. I highly recommend anyone who has interest in Japanese culture and language, as well as other aspects of Japan to try and experience Japanese university life first-hand.



With a Bunraku puppet doll after enjoying a Bunraku show at the National Bunraku Theatre, Osaka

編集・発行 文学部・文学研究科 国際連携室  
望月太郎・モハンマド モインウッディン・内田多鶴  
発行日 2021年3月31日

〒560-8532 豊中市待兼山町1-5